

■全体講評

今年の午後Ⅰ記述式試験（以下、午後Ⅰという）の採点結果を確認すると、特に問 1 と問 2 の採点基準が厳しく、平均得点が低い状況でした。一方で、問 3 は平均点が高い傾向にありました。今回の公開模試における採点基準は厳しく設定しています。理由は、本試験において、皆さんが作成した解答の趣旨が合っているにもかかわらず得点できないという残念な事態を、できるだけ皆さんに回避してほしいからです。そのため、採点では解答にキーワードが含まれているか、などを重視して採点しています。各設問における解答の必須キーワードについては後述します。

午後Ⅱ論述式試験（以下、午後Ⅱという）では、問 2 の設問イで“工夫した点“について問われています。そのため、“～した“の語尾を単に“～工夫した“と変更しただけの解答が散見されました。工夫を論じるときは、まず対応の難しさなど、工夫する必要性を説明した上で“～工夫した“と表現することが重要です。

加えて、2 時間で書くことが難しいと推測できる字数の解答が散見されました。個人差がありますが、設問イは多くても 1,200 字程度に抑えておいた方がよいかもしれません。検討してみてください。

なお、**禁則処理**ができていない、あるいは、敬語を使う、など**基本的なことができていない論文が散見**されました。

これから説明する解答作成のノウハウを確認して、得点力をアップして、より確実に合格できるようにしましょう。

なお、受験者からの話を聞くと、本試験では午後Ⅰよりも午後Ⅱの方が問題の選択漏れが多い傾向があります。本試験では、午後Ⅱの**解答用紙を提出する際は、問題選択漏れをしていないか、必ず確認**するようにしましょう。問題の選択漏れは、決して他人事ではありません。

■午後Ⅰ講評

各問題におけるポイントを次に示します。

【問 1 サービスレベル管理】

- (1)端数処理の徹底
- (2)設問要求の正確な把握

【問 2 保険販売システムのキャパシティ管理】

- (1)増設量の正確な計算

- (2)解答に必要な要素の選択基準

- (3)監視システムの不備の指摘

【問 3 情報セキュリティの運用と管理】

- (1)基本的なセキュリティ攻撃の名称
- (2)ID が複数出てくるため、正確にどの ID かを指摘
具体的には各問題の講評を参照してください。

■午後Ⅱ講評

午後Ⅱ論述式問題では、論文としての体裁について、もう一度、確認してみましょう。

午後Ⅱ論述式問題では、次の点に留意してください。優先順に説明します。

(1)問題文の趣旨に沿って論述する

問題文の趣旨に沿って論述することは、重要な解答条件です。設問文だけを読んで論述しないようにしましょう。

(2)詳細を説明する場合は先に概要を述べる

いきなり詳細な内容を述べても、採点者がイメージしにくく、結果的に読みにくい論文と評価される可能性が高まります。詳細を論じる際には、まず概要を説明し、その後に「具体的には～」と展開して事例の詳細を述べると良いでしょう。

(3)採点者が採点しやすい論文を作成する

設問で求められている内容、つまり採点者が知りたい情報がどこに書かれているか分からない論文では、高得点は期待できません。できるだけ設問文にある言葉を使い、設問文に沿った章立てをすることをお勧めします。ただし、例外もあります。

(4)“論述の対象とする IT サービスの概要”の記入漏れをなくす

解答用紙の最初に問われている“論述の対象とする IT サービスの概要”ですが、これも採点対象です。記入漏れをなくして、減点されないようにしましょう。本試験では、解答用紙を試験開始前に開いて問題のないことを確認した上で、試験開始前に“論述の対象とする IT サービスの概要”への回答内容を考えておくようにしましょう。

(5)IT サービスの名称を書く

“論述の対象とする IT サービスの概要”において最初に問うている 30 字が、IT サービスの名称になっていないものが散見されます。記述例が“論述の対象とする IT サービスの概要”内に挙がっているので、それ

を基に自分でチェックしてみましよう。例にならって、“～サービス”など名称の語尾を合わせることで、IT サービスの名称を修飾することも大切です。

本番の試験では質問事項も採点対象ですから、漏れなく答えるようにしてください。

(6)設問アの前半で“IT サービスの概要”が問われている場合は、“システム”よりも“IT サービス”を意図的に使う

システムの概要にならないようにしましよう。

(7)論文は1枚ずつ書く

書いた文字が重なり合った状態で、その上から字を書くと、双方のページに字が写ってしまい、読みにくい答案になります。論文は1枚ずつ書くこととよいです。

(8)事例の詳細を書く

一般論を書いているだけでは、具体性がなく、合格は難しいです。問題の趣旨に沿って事例の詳細を展開させて論述します。問題文をなぞったような論述の仕方はせずに、趣旨を参考にして掘り下げて論述することが重要です。同じ意味で表現を変えることも有効です。

(9)論文の体裁を整える

採点には大学の教員も担当することもあります。細かい点ですが、できれば、次の点に留意してください。

(a)禁則処理をする

(b)箇条書きで、節を書き始めない、書き終えない

(c)“いただく”、“お客様(固有名詞を除く)”などの敬語は使わない

(d)“思う”は使わない

(e)括弧は“(以下、～という)”以外では使わない

(f)問題にある漢字をひらがなや誤った字で書かない

(g)門構えなど、略字を書かない

(h)“である”調に統一する

(i)誤字に留意しましよう。例えば、“実績”を“実積”などと書かない

(j)箇条書きのタイトル以外で、体言止めを使わない

(k)長い段落は読みにくいので、適当な長さで段落を構成する

(l)段落の書き始めは字下げをする

以上、細かいですが、このようなことができないより、できた方がよいでしょう。

次に午後Ⅰの各問題について、講評と採点基準を説明します。

<午後Ⅰ>

問1 サービスレベル管理

【講評】

問題文に書かれた趣旨を踏まえて解答を作成しましよう。具体的には、設問2(2)が該当します。問題文で

は、システムのエラーを早く検知することが重要とされていますが、設問要求は“変更することを検討している理由”となっています。理由を述べる際は、現状で問題が発生しており、それを改善したいと考えている内容を中心に解答を作成します。

問題文に書かれた事象を考察するようにして解答を導きましよう。具体的には、[設問3](2)、(3)が該当します。設問要求は“どのような検討を行えばよいか”となっています。したがって、解答内容が「～という検討」のようになることを想定して解答を作成します。また、非常に検討された方もいましたが、(2)は可用性の向上を目指している状況と現状の回線が1本しかない点に着目することが重要です。また、(3)ではオンライン応答時間が論点となります。回線が確保されていても、回線の容量が確保されていないと時間を要する点に気づけたかがポイントになりました。

〔設問1〕

想定以上に不正解がありました。計算式を再度確認してください。端数処理が不正確だった方もいらっしゃいました。確実に得点したい設問です。

〔設問2〕

(1)単に“アラート”と解答されている方が多く見られました。アラートは警告メッセージになります。そもそもこのアラートが直接感知できない設備的な問題があり、決まった時間に確認する運用になっていることから、異なる方法(電子メールなど)で気づかせることを解答しましよう。

(2)ここでは「即時検知を可能にするため」と言った解答が多く見られました。しかし、検討した理由が求められているので、現状の問題点を指摘することが重要です。

〔設問3〕

(1)正答率はあまり高くありませんでした。SLAの信頼性を問題文で確認しましよう。

(2)(3)想定より誤り解答が多く見られました。回線の本数の話と回線の容量の話をも混同している方もいました。

【採点基準】

〔設問1〕

空欄a: 解答例と同じものに対し8点、その他は、基本的に0点。

〔設問2〕

(1)メールの意味合いが分かれば、8点、その他は基本的に0点。

(2)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し10点、その他は、基本的に0点。

〔設問 3〕

- (1)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点, その他は, 基本的に 0 点。
(2)回線の本数に関する内容であり, 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点, その他は, 基本的に 0 点。
(3)回線の容量に関する内容であり, 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点, その他は, 基本的に 0 点。

問 2 保険販売システムのキャパシティ管理

【講評】

計算は正確にしましょう。具体的には〔設問 1〕において, 1 年後と 2 年後の正確な数値を算出してできていない方が多く見受けられました。特に 2 年後の正答率が低かったです。計算問題は部分点が得づらいので, 正確に計算できるよう練習をしておきましょう。

問題の記述の粒度に合わせて解答も表現するようにしましょう。具体的には, 〔設問 2〕において, 開始前にする加えるべき確認手順のため, どのような確認を加えればよいかという観点で考えましょう。また, 考えすぎているかたも多く見受けられました。シンプルに, 開始前には設定の内容を, 開始後には負荷分散が効果を発揮しているかを CPU の使用率から検証することを解答として記述しましょう。

予兆を察知する方法について一般的な方法を想像した上で解答を作成するようにしましょう。具体的には〔設問 3〕(3)にて, インシデントとしての事態が顕在化する前に予兆をとらえるための方策が求められています。既に設定されている警告を発する基準のしきい値と SLA の関係を把握し, 予兆を検知するためには警報が発する前の段階で把握したいということを考えて解答を作成しましょう。

〔設問 1〕

- 1 年後: 正答率の比較的高い設問でした。
2 年後: 正答率の比較的低い設問でした。

〔設問 2〕

開始前: 正答率の高い設問でした。
開始後: 正答率の低い設問でした。正しく振り分けられていることを確認するといった解答は不正解にしています。正確に振り分けられていることを確認するための確認手順を解答しましょう。

〔設問 3〕

- (1) 内容: 正答率の高い設問でした。
理由: 正答率の高い設問でした。12 時以降に CPU 使用率が低いことはよく理解されていました。
(2)想定より誤解答が多かった設問です。サービスの切

り離しを趣旨とした解答や, 受注分析サービスのバッチ処理時間の変更などは不正解としました。設問文に「暫定対策以外に, 中長期的な視点で行う対策」とある点も意識して解答を作成しましょう。
(3)想定より正答率が低い設問でした。SLA 自体の見直しに言及している解答も多く見られましたが, 予兆を察知したいので SLA の変更とは直接関係ないことが把握できるとよかったです。

【採点基準】

〔設問 1〕

解答例と同値なものに対し 6 点, その他は, 0 点。

〔設問 2〕

開始前: 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点, その他は, 基本的に 0 点。
開始後: 解答例と同様の趣旨 (CPU の使用率など) が適切に指摘されているものに対し 6 点, その他は, 基本的に 0 点。

〔設問 3〕

- (1)内容: 12 時以降を必須として, 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点, その他は, 基本的に 0 点。
理由: 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点, その他は, 基本的に 0 点。
(2)顧客管理サーバのリソース増強の意味合いが分かるものを必須とし, 解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点, その他は, 基本的に 0 点。
(3)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点, その他は, 基本的に 0 点。SLA の変更を指摘している解答は不正解としました。

問 3 情報セキュリティの運用と管理

【講評】

特権 ID と利用者 ID の切り分けを明示した解答を作成するようにしましょう。具体的には設問 2(1)(2)設問 3(1)が該当します。単に“ID”とした場合は, 不正解としています。

〔設問 1〕

- (1)正答率の低い設問でした。かなりメジャーな攻撃なので, 名称は答えていただきたかったです。
(2)保管場所: 正答率の高い設問でした。
理由: 独立したサーバという観点が入っていない解答が散見されました。

〔設問 2〕

- (1)利用者 ID のログが記録されていない点以外の解答は不正解にしました。
(2)想定より正答率の低い設問でした。

〔設問 3〕

- (1)特権 ID という指定がなかったり、管理者ではなく“承認者”という表現が多く見られたり、正答率の低い設問でした。
- (2)ログの分析の正確性を指摘していない解答は不正解にしました。時刻があっていないとログに信憑性がなくなる点を理解しておきましょう。
- (3)正答率の高い設問でした。不要な要素が入っている解答も散見されました。

【採点基準】

〔設問 1〕

- (1)解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は、基本的に 0 点。
- (2)保管場所：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 3 点、その他は、0 点。
理由：解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 8 点、その他は、0 点。

〔設問 2〕

- (1)“利用者 ID”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、その他は、基本的に 0 点。
- (2)“利用者 ID”など特権 ID 以外という意味を必須として、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 7 点、その他は、基本的に 0 点。

〔設問 3〕

- (1)“特権 ID”，“管理者”を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 5 点、その他は、基本的に 0 点。
- (2)分析に対する正確性や信憑性などの観点を必須とし、解答例と同様の趣旨が適切に指摘されているものに対し 6 点、その他は、基本的に 0 点。
- (3)解答例と同じものに対し各 3 点、その他は、基本的に 0 点。不要なものを解答している場合については、一つにつきマイナス 1 点としています。

<合格に向けて>

自分の改善すべき点を確認し改善して、合格を目指しましょう。直前の学習スケジュールを作成する際の留意点を次に挙げます。

〔午前 I・II 多肢選択式問題〕

学習の基本は過去問題を解くことです。その際、解答解説も含めてしっかりと学習しましょう。分からない点や苦手な分野はテキストで補うと良いでしょう。ただし、過去問題の出題頻度が低下する可能性があります。そこで、専門誌や専門書を継続的に読み、専門知識を身に付けるようにしましょう。

〔午後 I〕

過去問題を使った本試験の演習では、IPA が発表する講評を確認し、「正答率の高い設問でした」という講評がある設問を確実に得点できているか確認しましょう。もし、正答率の高い設問を得点できていない場合は、自分の解答が正解に至らなかった原因を分析し、次回の問題演習に反映させることが重要です。

このように問題演習を中心に学習し、その際、解答を鉛筆で実際に書くようにしましょう。

記述式問題では、設問の条件を全て満たす解答を作成することが重要です。解答欄に記入する前に、「設問の全ての問いに適切に答えているか」という観点から、もう一度解答をチェックしてみましょう。次に、今回の公開模試を含む、記述式問題を演習する際の留意点を挙げます。学習の参考にしてください。

- (1)理由を問われている場合は、語尾を“ため”，“から”など、設問で問われている内容と解答の語尾を整合させる
- (2)“時間”と“時刻”を書き分ける
- (3)問題文にあるキーワードは、たとえ長くても省略しないで正確に書く
- (4)設問において“ケース”，“リスク”や“タイミング”などの名詞を問うている場合を除き、基本的には体言止めをやめる
- (5)問題文の“～なので，～していない”という展開は、解答に絡む可能性がある
- (6)問題文で使われているキーワードを積極的に使って解答を作成する
- (7)（以下，～という）など、問題文で定義した言葉はキーワードとして着目する
- (8)機能の説明など、詳細な説明については、解答に絡む確率が高いので着目する
- (9)問題文の粒度に合わせて解答も表現する
- (10)図の注釈に着目して正解を導く
- (11)ケアレスミスを発見するために、解けた設問の解答を再度確認する

〔午後 II〕

IPA が発表した講評を読んで、どのように書いてしまうと不合格になるのか、どのように書くと採点者が合格と認めるか、確認しておきましょう。

例えば、IPA の採点講評を確認すると、毎年“作業状況の記述に終始し自らの考えに関する記述が希薄な解答が散見された”とあります。この内容から、単純な報告書ベースの文章では合格が難しいことを示唆しています。“～と考え，～”あるいは，“なぜならば～”と展開して専門家の考えをアピールすることが重

要であることが分かります。

以上を参考に、各試験を突破できる力を伸ばし合格を、より確実にしましょう。

-以上-

itec